

LETTER FROM COPENHAGEN  
コペンハーゲン通信 PART VI  
2



デンマーク王国 DATA

人口578万人(≒兵庫県)、面積4.3万平方キロ(≒九州)、欧州最古の王室を有する立憲君主国。「世界一幸福度の高い国」「環境・デザイン・福祉先進国」として知られ、アンデルセン童話、食器・家具・知育玩具などのブランドは日本でも有名。

2007年1月より本会事務局職員が在デンマーク日本大使館に出向しています。国際競争力や人々の幸福度で高い評価を受けるデンマークからの現地報告を不定期にお届けします。



エンドウ豆



デンマーク産のイチゴ



2021年完成予定、隈研吾氏デザインのプール施設



古澤 芽衣

在デンマーク日本大使館二等書記官  
(経済同友会事務局より出向中)

## デンマークの夏

6月に入り、デンマークはもうすっかり夏です(7月下旬頃から涼しくなり始めるので夏らしい夏はとても短いのです)。外は、日光浴をしている老若男女、運河で泳ぐ子どもたち、サイクリングやカヌー、クルージングを楽しむ人たちであふれています。6月21日の夏至に向け日照時間も日々長くなっており、毎日21時ごろまで屋外で人々がそれぞれの夏を満喫しています。夏至の日照時間は約17時間半で日出は4時半、日没は22時ごろです。夜が短い夏のデンマークでは、寝るときの遮光カーテンは欠かせません。

5月中旬ごろから、日中は半袖または薄手のシャツを羽織る程度でちょうど良い季候になります。今年5月の平均気温は15度で、記録よりも1.2度上回り観測史上最も暑い5月となりました。コペンハーゲンでは、5月では珍しく最高気温28度を観測する日もあるほどでした。日本の夏とは違い湿度が低いためカラッとしていて、冬と違って風は強くないため、とても穏やかで気持ちの良い季候です。デンマークの報道によると、今年の5月は観測史上最も太陽が現れていた時間(晴れでも雲などに太陽が隠れていた時間は除く)が長く、合計363時間だったそうです。史上2位は2008年の347時間、3位は1947年の330時間です。

デンマーク人の夏休みの過ごし方は大きく分けて2タイプあります。一つは、南欧をはじめとしたリゾート地に旅行に行くことです。南欧のリゾート地には、各航空会社が夏にだけ直行のシャトル便を運行しており、多くの人イタリアやスペイン、ギリシャの島などを訪れます。もう一つは、国内のサマーハウス(夏に過ごす別荘)に行き夏休みを過ごすというものです。多くの人、住居とは別に

郊外の森や海のそばにサマーハウスを持っています(レンタルも可能)。都会の喧噪<sup>けんそう</sup>から離れ、森でベリーを摘んで食べたり、ビールを片手に日光浴をしたり、バーベキューを楽しんだり、のんびりとした時間を家族と過ごします。日本でも話題になった、まさに夏の“ヒュック”な時間です。

スーパーや市場、レストランには夏ならではの食材や料理が並びます。特に夏のデンマークでよく目にするのは、デンマーク産のエンドウ豆とイチゴです。エンドウ豆は、日本のサヤエンドウより大きく皮が厚いため、皮をむいて中身(グリーンピースくらいの大きさ)を生で食べます。赤ちゃんから大人まで、これをおやつのように外出時でも歩きながら食べるため、道端にこの皮がよく落ちていた様子は夏の風物詩と言えるかもしれません。デンマーク産のイチゴは、日本のブランドイチゴに比べると糖度は低めですが、摘みたてでイチゴらしい甘さと酸味がありおいしいです。この時期、パン屋さんやお菓子屋さんに行くと必ずと言っていいほどイチゴのタルトやケーキがあります。また、デンマークの代表的な夏のデザートにはイチゴがよく利用されており、ルバーブ(セロリに似た茎)のコンポートにクリーム、黒砂糖をかけたものにもイチゴが使われています。

毎年夏になると、コペンハーゲン市内の運河の一角にハーバー・バス(Habour Bath)と呼ばれるスイミングプールがオープンします。現在市内には4カ所あり、最初にオープンしたのは2002年です。市内の水質改善を行い実現したプールで、毎年プールをオープンさせることでより良い水環境の管理を行っています。2021年には巨大プール施設が新たに運河沿いにオープンする予定で、設計は日本人建築家の隈研吾氏が行うことが先日決定。夏の新メッカとなる見込みで、デンマークの夏がますます注目されそうです。